

令和2年度 徳島大学（被災建築物）応急危険度判定訓練研修会 実施報告

常三島技術部門
ものづくりグループ

河村 勝（KAWAMURA Masaru）

1. はじめに

南海トラフ地震は、この30年以内に70～80%の確率で発生すると予測されている。南海トラフ地震後、津波も発生し間違いなく大きな人的被害、建物被害を受けることが想定される。徳島大学でもその被害に対して震災後に二次災害を防止する目的で応急危険度判定を実施することとしている。また、それに加え地震直後の避難行動も重要である。津波から逃れるために建物の3階以上に避難しなければならない、その建物が倒壊する危険性があるかどうかを早期に判定し、その建物にとどまることが出来るのかを判定しなければならない。その判定により、避難可能建物へ避難誘導を行う。平成28年度より、研修会に徳島大学自衛消防隊の方々にも参加してもらい、そのような「建物避難の要否を見極めることができる」人材育成を試みている。また、今まで通り応急危険度判定の体制づくりも目的としてこの研修会を開催した。平成26年度から継続して開催しており、今年度で7年目となり累計206名の受講者となった。現在、WS（意見交換・改善点等）での要望に応え1年に2回研修会を開催している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催時期を遅らせ、11月に蔵本キャンパス、12月に常三島キャンパスにて実施した。今回ここにおいて、蔵本キャンパスで開催した応急危険度判定訓練研修会について報告する。

2. 応急危険度判定訓練研修会概要

- ・研修名：
令和2年度
第2回応急危険度判定訓練研修会
- ・日時：令和2年11月17日（火）
13：15～17：15
- ・会場：徳島大学蔵本キャンパス
蔵本会館2階多目的室4, 2

・講師：河村 勝（一級建築士）

・研修会参加者総数：10名

・スケジュール：

13:15-13:20	あいさつ（粕淵・河村）
13:20-14:40	座学1・座学2
14:40-14:55	座学3（損傷度の説明）
14:55-15:10	班決め・判定装備確認
15:10-16:30	応急危険度判定訓練
16:30-16:45	移動・休憩
16:45-17:15	WS

3. 実施内容

座学1（図1，図2）では、応急危険度判定、判定士とは、判定士の必要要件、業務内容、判定の装備、判定表、建物避難の要否を見極めることができる人材育成についても説明を行った。また、座学2では判定方法・判定の解説および判定の流れについての動画を見てもらい学んでもらった。



図1 座学の様子

損傷度の説明では、WSでの要望により判定士が損傷度の判定を分かり易く理解できるように被災事例を利用した解説書で詳しく説明を行った。

応急危険度判定訓練では、基本である2人1組で判定を行った。今回、蔵本キャンパス内の先端酵素学研究所A棟と先端酵素学研究所B棟の2棟を判定することにした。事前準備

として判定に必要なになる損傷のイラスト，写真等を建物に貼った。まず初めに先端酵素学研究所B棟にてどのように判定をしていくのかレクチャー（図3）を行い，その後2棟目の先端酵素学研究所A棟を判定してもらった（図4，図5）。



図2 座学の様子



図3 レクチャーの様子



図4 応急危険度判定の様子



図5 各班による判定の説明と発表の様子

WSでは，色つき付箋を使用し，今回受講した研修会について各自の意見を書いてもらい，ひとりずつ発表していただいた。今回の応急危険度判定訓練について，研修会全体についての良かった点・悪かった点・反省および改善点などの意見交換を行った。「判断に個人差が生じ難しく感じた。」，「研修前はどのようなことをするのか想像がつかなかったが，座学でテキストと映像で学んだ上に実施できたので，イメージしやすく分かりやすかった。」，「実際に災害が発生した時に，屋外避難要否判定の結果を速やかに各棟へ情報提供し学生，教職員に伝えなければ意味が無いのですが，ほんとにできるかどうか？」，「教員の研修の受講が少ない」などの意見も挙がり課題も見つかった。

4. まとめ

今回で，この研修会も7年目，12回目となり研修会として確実に定着している。平成27年度から年に2回研修会を開催することを決定し継続している。人材育成のためにも意識向上のためにも，繰り返し実施することが重要であると考えている。今後も多くの方が受講していただけるよう，WSでの意見等を検討し工夫，改善などを行う予定である。